

# アジアリーグレギュラーリーグにおける

## オーバータイムのルール

1. アジアリーグアイスホッケーのレギュラーリーグ戦において、第3ピリオドを終了した時点で同点の場合は下記のように定める。
  - 1-1 各チームには勝点1ポイント与え、2分間の休憩の後に5分間のサドンビクトリー方式による延長ピリオドを行なう。ゴールのサイドはレギュラータイム終了時点と同じものとする。いずれかのチームが得点した時点で試合終了となる。勝利チームに追加勝点1ポイントが与えられる。
  - 1-2 レギュラーリーグ戦の延長ピリオドは、各チーム4人のプレーヤーおよび1人のゴールキーパーでゲームを行なう。
2. アジアリーグアイスホッケーのプレーオフの延長戦については次のように定めるものとする。
  - 2-1 15分間の休憩及び整氷の後、20分間のサドンビクトリー方式による延長(OT)ピリオドを行なう。いずれかのチームが得点した時点で試合終了となる。ゴールのサイドはレギュラータイム3P終了時点から逆のサイドに移る。1<sup>st</sup>OTが終了し、尚同点の場合は決着が着くまでこれを繰り返し行なう。
  - 2-2 プレーオフの延長ピリオドは、各チーム5人のプレーヤーおよび1人のゴールキーパーでゲームを行なう。

### 《詳細》

- ① 延長ピリオド中、一方のチームにペナルティが科せられた場合、4対3でプレーする。延長ピリオド中に科せられた同時のペナルティは、氷上の人数に影響しない。  
注意：延長ピリオドに入り、両チームに1個ずつのマイナーペナルティが同時に課された場合の解釈。通常のピリオドで、両チームが5対5の状況下であれば、同時の反則(512条)の例外規定によって反則が課される。しかし、4対4方式による延長ピリオドにあつては、512条の例外規定の適用はない。同時に課せられる各チーム1つずつのマイナーペナルティは、同時のペナルティとしてキャンセルアウトの対象となり、試合は4対4で再開される。延長ピリオドでは、キャンセルアウトが可能なすべての反則がキャンセルアウトの対象となる。
- ② 延長ピリオド中、一方のチームに、相手チームより2名少なくなるようなペナルティが課せられた場合、反則したチームのスケーターは3名のままとし、反則をしていないチームは5人目のスケーターを追加することができる。
- ③ 氷上の人数に2人の差がある状態が終わった後の最初のプレー中断時に、氷上の人数は、4対4または4対3のいずれか適切な状態に戻るものとする。
- ④ 数的な状況がレギュラー・ピリオドから延長に持ち越される場合、延長開始時にこれが適用される。つまり、レギュラー・ピリオド終了時に5対4だった場合、延長は4対3で始まる。

《状況1》

第3ピリオド終了時に両チームが5対4で戦っていた。

Aチームの選手には第3ピリオド19:00にマイナーペナルティが科されていた。

⇒ 延長ピリオドは3対4で再開され、反則の残り時間は時計に表示される。延長ピリオド1:00にAチームの選手は氷上に戻り4対4となる。

⑤ レギュラー・ピリオド終了時に氷上の人数が5対3だった場合、5対3のまま延長を開始する。

ペナルティ終了後、プレーの継続状況により、5対5または5対4となる。その後のプレーの最初の中断時に、氷上の人数を4対4または4対3に調整しなければならない。

《状況2》

第3ピリオド終了時に、A・B両チームは5対3戦っていた。

Bチームの20番には3ピリオド19:00に、10番には19:30にそれぞれマイナーペナルティが課せられている。

⇒延長ピリオドは5対3で再開され、反則の残り時間が計時される。延長ピリオド1:00にBチームの20番が氷上に戻り5対4となる。その後に試合の中断があれば、その時点で4対3に調整するが、1:30まで試合の中断がない場合、10番が氷上に戻り5対5となり、その後のプレーの最初の中断時に4対4に調整する。

⑥ レギュラー・ピリオド終了時に両チームの人数が3対3だった場合、延長を3対3で開始する。

両チームの人数が5対4または4対4になった後、最初の中断時に、4対3または4対4のいずれか適切な状態に調整するものとする。

⑦ レギュラー・ピリオド終了時に、ひとりまたは複数のプレイヤーが同時ではないペナルティを

遂行しており両チームの人数が4対4だった場合、延長は4対4で始まり、これらのプレイヤーがペナルティ・ベンチを出た場合は通常どおり5対4または5対5となる。最初のプレー中断時に、4対3または4対4のいずれか適切な状態に調整するものとする。

《状況3》

第3ピリオド終了時に両チームが4対4で戦っていた。

Aチームの選手には19:00に2分間のマイナーペナルティが科せられており、Bチームの選手には19:30に2分間のマイナーペナルティが科されていた。

⇒ 延長ピリオドは4対4で再開され、両者の反則の残り時間は時計に表示される。

延長ピリオド1:00にAチームの選手が氷上に戻り5対4となる。その後に試合の中断があれば、その時点で4対3に調節する。1:30まで試合の中断がなければ、Bチームの選手が氷上に戻り5対5となる。その後の最初の試合中断時に4対4に調節する。

《状況4》

第3ピリオド終了時に両チームが4対4で戦っていた。

Aチーム及びBチームの選手には、第3ピリオド19:00にマイナーペナルティが科されていた。

⇒延長ピリオドは4対4で再開され、両者の反則の残り時間は時計に表示される。延長ピリオド1分に両者は氷上に戻り5対5となる。最初の試合中断時に4対4に調整する。